

アートスクール『あきたの「力士」』

2012年9月30日(日)



なぜ「力士」をモデルに？

藤田嗣治の作品の中に「北平の力士」という絵画があります。藤田が中国を訪れた際のデッサンをもとにした作品です。(北平は現在の北京)

お相撲さんのフォルムは1つ1つのパーツがはっきりしていて、きっと小さい子からご年配の方、美術の心得がなくても描くと楽しいのではないかと考えました。藤田は中国の力士を描いた。では、我々は郷土秋田の力士豪風関をぜひ描いてみたいと思い、企画をしました。断られるのではという心配がありましたが、豪風関はとても快く引き受けてくださいました。



描くことを楽しむ！

鹿角市在住の講師、熊谷晃太さんはご自身も相撲の経験があり、また十和田市立美術館で「SUMOAURA-相撲オーラ」に出品、ワークショップも多数手がけてこられました。当日、豪風関をボールペン1本で描く様子を見せてくれました。縦横無尽に一見落書きのように描いていながらも段々と豪風関が浮かび上がってきました。参加者から黒のボールペン1本でこんなにすごい絵が描けるとは、と感想が聞こえてきました。

いざデッサンが始まると皆真剣に。熊谷さんのアドバイスのもと、手が止まってしまうという人はいませんでした。カリカリカリとリズムカルな音が部屋に響き渡っていました。「先生の描き方を真似たら描けた」と嬉しそうに話してくれた方もいました。

モデル初体験となった豪風関は「動かないでじっとしていることがこんなに大変だとは。勉強になりました。」と体が硬くなっていたにも関わらずクエストがくると四股を踏んだり、股割りを見せたりしてくれました。最後は1人1人のデッサンにサインもしてくれ参加者をさらに喜ばせてくれました。

